

油彩や立体作品 中区で初の個展

女性美術作家2人

美術作家として活動を始めた二人の女性の初個展が、中区栄3のギャラリーくさ笛と中区錦3のギャラリー彩でそれぞれ開催中だ。

ギャラリーくさ笛では十八日まで、蒲郡市の持田翔子さんが「汲む。」と題して油彩画二十二点を展示。三河湾の景色や鉄道高架のある街の点景などを、細かな描写を省き、色彩と形を前面に押し出した特徴

的な画面構成で見せる。

名古屋芸術大を卒業後、



「汲む。」と題して初個展を開き、油彩画を並べた持田さん。中区栄3のギャラリーくさ笛で

いったんは社会人となったが、作家としての将来を求めて二年後に同大学院へ。二〇一九年春に修了し、創作活動に打ち込む。当初は夜景や、やや暗色系の色使いが目立つが、近作では明るめの色も。色が風景の中に溶け込んでいくような絵肌が心地良い。

一方、ギャラリー彩は県立芸術大で彫刻を学び、昨年春に卒業した名東区のみずか（本名・加藤静）さん

（三巴）が出展。「LOOK」と題し、パソコンで描いた美少女キャラクターのデジタルイラスト十七点と樹脂素材で制作した立体作品二点を二十二日まで展示している（十八日は休み）。

イラストと立体を組み合わせ、互いに響き合う展示空間を目指した。みずかさんは「平面と立体それぞれの次元を行き来する私の視線を感じてもらえたら」と話す。